

令和6年度知立神社例大祭

「知立の山車文楽とからくり」

知立の山車文楽とからくりは、隔年ごとの本祭りの年に奉納上演されます。5輛の山車が各町内を巡行して神社境内でそろう踏み、山町・中新町・本町・宝町の山車では人形浄瑠璃が、西町の山車では、山車からくり人形芝居が約300年前から行われています。

祭礼に曳き出される山車の上に人形を飾りつけたり、その人形をからくりによって動かしてみせることは、全国各地に伝承されておりますが、知立の山車文楽とからくりは、山車の張り出し舞台で人形浄瑠璃を、上層でからくり人形芝居を、それぞれ演ずるという珍しい形態として平成2年に国指定重要無形民俗文化財に、平成28年にユネスコ無形文化遺産に指定されました。

【中新町演目】 鎌倉三代記

三浦之助は母の病気が気掛かりで戦場から帰ってきましたが、気丈な母は合戦最中に未練者と対面を許しません。戦場へ戻る三浦之助の討ち死の覚悟を見抜いて、姫はせめて夫婦のかためをとかき口説きました。三浦之助も母への孝養に菓の一つもあげようと奥の間へ入ります。時姫が非常にユニークな性格に描かれています。時の最高権力者の娘が豆腐を買ってくる意外さ、惚れた男に積極的に迫る情熱、夫をとるか父をとるか迫られて夫をとる恋一筋の女性です。

【本町演目】 釣女

お大名が妻を授かりたいと恵比須様に祈願をします。夢のお告げの西門の階段にあった釣り竿で見事美女を得ることができました。それにあやかろうと太郎冠者。”き

びす様”に祈願し、釣り上げてみたら、フグのような醜女。太郎冠者は約束も反故に、醜女から逃げ回り、どさくさに大名の妻となった美女をさらって行ってしまいます。

【西町演目】 一の谷

源平合戦のうち、一の谷の戦いに焦点を合わせ、熊谷と岡部 平山の物語をつづった「一谷嫩軍紀」の二段目を作り替えたものです。小次郎の人形が、とんぼ返り・桜わたりをする離れからくりが楽しく、平山が串刺しになるのが滑稽で、最後に熊谷と岡部の人形が尉と姥に早変わりするのびっくりします。

【宝町演目】 団子売り

杵造とお臼という団子売の夫婦がいる。二人は街中で団子を売るが、これが杵と臼を使い、出来たて”を売っていた。もう大評判で、いつも飛ぶように売れるという夫婦の団子。今日も早速、団子作りに取りかかる。そして杵造は赤い鉢巻をした姿、お臼はおかめの面を付けた姿で踊り、この夫婦円満めでたい様子を見せると、また二人は団子を売りに次の場所へと向かっていきます。

【山町演目】 神霊矢口の渡し(頓兵衛住家の段)

悪人の頓兵衛と、お舟の色香にまるめこまれた下男の大蔵、恋する娘のいちずさ、三人三様の人物を語り分け、しかも手おいになった娘お舟が、死力をつくして櫓にたどりつき太鼓を打ち鳴らす姿を、語り、三味線、人形遣いが一体となって盛り上げるのが圧巻です。